

令和 8（2026）年度

2 月入学試験問題

社会福祉学研究科 社会福祉学専攻

修士課程

社 会 人

専門科目

（高齢者福祉論）

受 験 上 の 注 意

1. 試験開始の合図があるまで試験問題を開いてはいけません。
2. 受験者は、すべて試験監督員の指示に従ってください。
3. 試験時間内の退場はできません。
4. 解答用紙のみ提出してください。
5. 試験時間は 90 分です。

熊本学園大学大学院

令和8（2026）年度 熊本学園大学大学院修士課程 2月入学試験問題
〔社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程〕

【専門科目】

（専修科目）〔高齢者福祉論〕

〔問1〕

日本の介護予防政策は、これまで主として運動・栄養・口腔ケアなど、個人の生活習慣や行動変容に着目したアプローチを中心に展開されてきた。しかし近年、近藤克則らによる社会疫学的研究（JAGESなど）をはじめとする実証研究によって、要介護状態の発生リスクや健康状態は、個人の努力だけでなく、所得、学歴、居住環境、人間関係、社会参加の機会といった社会的要因によって大きく規定されていることが明らかになってきている。

このような知見は、介護予防を「個人への働きかけ」中心の施策から、「社会環境・地域環境の改善」を通じた社会的アプローチによる介護予防へと転換する必要性を示唆している。

以上を踏まえ、

- ①従来の個人責任型・生活習慣改善型の介護予防の限界、
- ②社会的アプローチによる介護予防の考え方とその意義、
- ③それを地域福祉政策・地域づくりの中でどのように具体化していくべきか、
について、理論的背景と具体例の双方に言及しながら論じなさい。

〔問2〕

近年、日本では独居高齢者や高齢夫婦のみ世帯の増加、地域社会におけるつながりの希薄化などを背景として、高齢者の孤独・孤立が深刻な社会問題となっている。孤独・孤立は、精神的健康の悪化だけでなく、身体的健康の低下、要介護リスクの上昇、さらには孤立死の問題とも結びつくなど、個人の生活の質と社会全体の福祉に大きな影響を及ぼしている。

高齢者の孤独・孤立がどのような社会的・構造的要因によって生み出されているのかを整理したうえで、

- ①高齢者の孤独・孤立の現状とその問題性、
- ②それが高齢者本人および地域社会に及ぼす影響、
- ③これに対して国・自治体の政策および地域福祉実践はどのような役割を果たすべきか、
について、具体的な施策や取り組みの例にも触れながら論じなさい。

(選択科目) [社会保障論]

[問] 人口高齢化の進展が社会保障に及ぼす影響について論じなさい。

